

令和4年度（2022年度）第2回公立高等学校配置計画
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁学校教育局高校教育課

令和4年度(2022年度)第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会開催日程一覧

- ・下記に記載の開催場所に来場しての参加
- ・参加者のPC等からZoomアプリを用いたオンライン会議への参加

| 学区 | 開催日 | 開催時間 | 開催場所 |
|------|----------------------|-----------------|------------------|
| 空知南 | 令和4年(2022年) 7月25日 | 14時00分 ~ 15時30分 | 岩見沢市生涯学習センターいわなび |
| 空知北 | 令和4年(2022年) 7月25日 | 10時15分 ~ 11時45分 | 砂川市地域交流センターゆう |
| 石 狩 | 令和4年(2022年) 7月29日 | 14時30分 ~ 16時00分 | 北海道自治労会館 |
| 後 志 | 令和4年(2022年) 7月22日 | 10時30分 ~ 12時00分 | 後志合同庁舎 |
| 胆振西 | 令和4年(2022年) 7月8日 | 9時30分 ~ 11時00分 | むろらん広域センタービル |
| 胆振東 | 令和4年(2022年) 7月8日 | 15時00分 ~ 16時30分 | 苫小牧市教育・福祉センター |
| 日 高 | 令和4年(2022年) 7月26日 | 14時30分 ~ 16時00分 | 日高合同庁舎 |
| 渡 島 | 令和4年(2022年) 7月19日 | 13時30分 ~ 15時00分 | 大中山コモン |
| 檜 山 | 令和4年(2022年) 7月20日 | 13時30分 ~ 15時00分 | 檜山合同庁舎 |
| 上川南 | 令和4年(2022年) 7月19日 | 10時30分 ~ 12時00分 | 上川合同庁舎 |
| 上川北 | 令和4年(2022年) 7月19日 | 15時00分 ~ 16時30分 | 駅前交流プラザよろーな |
| 留 萌 | 令和4年(2022年) 7月20日 | 13時30分 ~ 15時00分 | 苫前町公民館 |
| 宗 谷 | 令和4年(2022年) 7月21日 | 13時30分 ~ 15時00分 | 宗谷合同庁舎 |
| 林-ツ中 | 令和4年(2022年) 7月28日 | 14時30分 ~ 16時00分 | 北見市民会館 |
| 林-ツ東 | 令和4年(2022年) 7月29日 | 9時30分 ~ 11時00分 | オホーツク合同庁舎 |
| 林-ツ西 | 令和4年(2022年) 7月29日 | 14時30分 ~ 16時00分 | ホテルサンシャイン |
| 十 勝 | 令和4年(2022年) 7月21日 | 13時00分 ~ 14時30分 | 十勝教育研修センター |
| 釧 路 | 令和4年(2022年) 8月4日 | 13時30分 ~ 15時00分 | 釧路センチュリーキャッスルホテル |
| 根 室 | 令和4年(2022年) 7月27日 | 9時30分 ~ 11時00分 | 根室振興局 |

参加者数一覧

| 会場 (学区) | 参加者 | | | | | | | | | | | 傍聴者 F | 合計 H(E+F) | |
|------------|----------------|-------|-----|------|-----|--------|--------|------|-----|--------|----------------------|----------|--------------|---------------------|
| | 行政 関係者 A | 学校関係者 | | | | 計 B | PTA関係者 | | | 計 C | 経済 団体 関係者 D | | | 計 E (A+B+C+D) |
| | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 小学校 | | 中学校 | 高等学校 | | | | | | |
| 空知南 | 10 | 6 | 9 | 12 | 27 | 1 | 0 | 6 | 7 | 1 | 45 | 8 | 53 | |
| 空知北 | 15 | 9 | 13 | 9 | 31 | 3 | 3 | 3 | 9 | 3 | 58 | 12 | 70 | |
| 石狩 | 7 | | 8 | 40 | 48 | 2 | 5 | 6 | 13 | | 68 | 4 | 72 | |
| 後志 | 25 | 16 | 19 | 17 | 52 | 4 | 10 | 6 | 20 | 3 | 100 | 2 | 102 | |
| 胆振西 | 6 | 6 | 6 | 12 | 24 | 1 | 2 | 1 | 4 | 1 | 35 | 2 | 37 | |
| 胆振東 | 5 | 3 | 5 | 15 | 23 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 30 | 3 | 33 | |
| 日高 | 8 | 6 | 5 | 7 | 18 | 3 | 1 | 2 | 6 | 2 | 34 | 2 | 36 | |
| 渡島 | 11 | 9 | 11 | 22 | 42 | 2 | 1 | 4 | 7 | 1 | 61 | 9 | 70 | |
| 檜山 | 6 | 7 | 7 | 4 | 18 | | 2 | 1 | 3 | 1 | 28 | 3 | 31 | |
| 上川南 | 13 | 10 | 11 | 20 | 41 | 0 | 1 | 6 | 7 | 1 | 62 | 4 | 66 | |
| 上川北 | 10 | 7 | 7 | 8 | 22 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 33 | 6 | 39 | |
| 留萌 | 14 | 7 | 7 | 5 | 19 | 3 | 6 | 4 | 13 | 3 | 49 | 1 | 50 | |
| 宗谷 | 10 | 10 | 9 | 8 | 27 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 42 | 1 | 43 | |
| オホーツク中 | 23 | 6 | 6 | 10 | 22 | 1 | 5 | 5 | 11 | 4 | 60 | 7 | 67 | |
| オホーツク東 | 5 | 1 | 5 | 6 | 12 | 0 | 2 | 1 | 3 | 0 | 20 | 2 | 22 | |
| オホーツク西 | 9 | 5 | 6 | 5 | 16 | 4 | 4 | 2 | 10 | 4 | 39 | 1 | 40 | |
| 十勝 | 27 | 19 | 17 | 21 | 57 | 14 | 14 | 2 | 30 | 1 | 115 | 6 | 121 | |
| 釧路 | 9 | 6 | 7 | 15 | 28 | 6 | 4 | 7 | 17 | 3 | 57 | 9 | 66 | |
| 根室 | 7 | 5 | 5 | 6 | 16 | 0 | 2 | 3 | 5 | 3 | 31 | 3 | 34 | |
| 合計 | 220 | 138 | 163 | 242 | 543 | 45 | 63 | 62 | 170 | 34 | 967 | 85 | 1,052 | |

主な意見及び道教委の考え方

| ■ 高校教育全体の充実 | |
|--|---|
| 意見又はアンケートの概要 | 道教委の考え方 |
| ① 少子化の中で、これまでの教育環境を維持するためには、教員定数や、より効果的な ICT の活用を検討していく必要があると思う。現在の生徒の実態を考えると、人のかかわり方という課題がある中、ICT の活用を図ることだけではなく、人と人の触れ合いによる教育の重要性も高いと思う。 | ○ 地域の発展に主体的に参画できる人材を育成する視点に立って、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた教育活動を行うなど、地域の特性を生かした活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。 |
| ② ふるさとに愛着を持ち、郷土愛を高めていくことで、地域を支える人材が育ち、持続可能な社会の担い手になるものと思われる。地域社会とのかかわりを積極的に教育課程に取り入れた特色ある高校づくりが必要に思う。 | ○ 各高校においても、地元市町村や企業等と連携し、地域課題の解決等に取り組む学習活動を推進するなど、生徒や保護者にとっても一層魅力ある高校づくりに努めます。 |
| ③ 少子化は避けて通れないものだが、その中で、高校の学びを保障し、社会の担い手になってもらえるよう、連携というキーワードを基に、個別最適な学びと協働的な学びを進めていくことの大切さを改めて感じた。 | ○ また、地域の参画・協力を促進することは、学校運営の改善につながるとともに、学校の魅力化や特色づくりにも資するものと考えており、道立高校においてもコミュニティ・スクールの導入などを進めています。 |
| ④ 学習の個別化・個性化が進む中で、子供たちの多様な学びにフィットした学科の創設は欠かせないと思う。ハードを準備することも大切だが、そこでどのような学びがあり、どのような力が身に付き、どのような出口が待っているのかは、生徒や家庭の具体的な進路選択に大きく関係する問題だと思う。 | ○ さらに、地域の課題解決に取り組む「北海道 CLASS プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができると期待し、人材の育成や、普通科改革や STEAM 教育等、新時代に対応した高等学校教育の在り方を踏まえた施策に取り組んでおり、高校の魅力づくりについて更に検討を進めます。 |
| ⑤ 行政とタイアップしながら教育課程を組むことができ、卒業後の進路についても見通しが持てる高校づくりが大切と考える。 | |
| ⑥ ただ単に、「高校が地域とどうつながるか」という高校側からの視点だけではなく、小・中学生のキャリア教育や地元での就職なども含めて、「地域づくりの中で果たす高校の役割は何か。どうあるべきか。」ということを地域全体で考えていく、地域側からのアプローチも必要だと思う。 | |

| ■ 特色ある高校づくりの推進 | |
|---|--|
| 意見又はアンケートの概要 | 道教委の考え方 |
| <p>【魅力化の推進】</p> <p>① 生徒数の減少により、高校配置計画の策定は必要であると思う。そのため、北海道の広域性、特色ある高校づくりや高校の適正な規模など、生徒や保護者、地域の願いを十分に考慮し、多様なタイプの高校や特色ある高校づくりを、知恵を出し合って進めていかなければならないと思う。</p> | <p>○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、総合学科や単位制などの多様なタイプの高校づくりや地域の特性を生かした魅力ある高校づくりに努めます。</p> <p>○ また、令和 2 年 12 月の「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」に続き、令和 4 年 3 月には、各高校等における魅力化の取組をさらに推進するため、「取組事例集」</p> |

| | |
|--|---|
| <p>② 産業を下支えする教育機関の充実を図るため、特色ある高校づくりは今後も推進すべきと考える。</p> | <p>を作成しました。 今後とも、学校と地域が連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することができるよう、学校の取組を支援します。</p> |
| <p>③ 特色や魅力を明確に示し、中学生の進路選択に役立つようにしてほしい。</p> | |
| <p>④ 特色ある高校づくりは大前提だが、第一は、高校生がこの学校に進学してよかった！と思える高校づくりが大切だと思う。そこに通っている高校生やその保護者が、高校の良い情報を発信することで、生徒募集につながると思われる。</p> | |
| <p>⑤ 高校が、地域社会や企業等と一層連携した教育を推進していくことが大切と感じる。普通科においては、その学校の特色を更に出していくことが、今以上に活力ある、魅力ある高校づくりにつながると思う。</p> | |
| <p>【具体的な取組と課題】 ⑥ 地域創生につながる高校の魅力化については、学校と地域、生徒を含めて本質的な議論が大切。このことを踏まえ、コミュニティスクールやコンソーシアムを設置する必要がある。</p> | <p>○ 「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」においては、「高校の魅力化」を、生徒や学校、地域の実態を踏まえ、地域と連携・協働して、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応した教育活動を展開することにより、生徒の自己実現に寄与することができる高校づくりを推進し、生徒から選ばれる学校になることとしており、こうした学校づくりに向けて、高校の取組を支援します。</p> |
| <p>⑦ 「特色ある高校づくり」といっても難しさを感じるが、普通科における新しい学科の設置が上手く進むと良いと感じた。</p> | |
| <p>⑧ アンビシャススクールといった、学びの基本である、基礎に特化した教育も、高等学校では魅力があるのかと思う。札幌市に夜間中学ができ、生涯をかけた学び直しが認められる環境が生まれたことを考えると、このような高等学校が増えていくことが望ましいと考える。</p> | <p>○ 現代的な諸課題の解決に向けた探究学習を行うことを特徴とした普通科新学科設置の検討、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着、社会生活・職業生活に必要な基本的な能力や態度の育成に重点を置いたアンビシャススクールの充実に努めます。</p> |
| <p>⑨ 魅力ある高校が、地域創生に必要な条件ではないかと考える。地域で頑張る子供たちを育てるためにも、中高だけでなく、小学校からのつながりを重視して、魅力ある高校づくりを進めていくことが必要だと考える。都会から見ると、小さな地域で、より連携が取られやすい地域なのに、なかなかそうならない現実があるので、生き生き輝く高校生の姿が見られて、それを手本としながらこの地域で頑張る子供たちを、小学生から育てる必要を感じている。</p> | <p>○ また、令和3年4月に開設した北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））からの遠隔授業の配信等を通して地域連携特例校や離島にある高校の教育課程の充実を図ります。</p> <p>○ さらに、令和3年度から実施した、地域の課題解決に取り組む「北海道 CLASS プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。</p> |
| <p>⑩ コミュニティ・スクール等が有効に機能することが大切だと考える。今求められている学校としての学びの在り方を発信することと、地域の方々の共通認識が必要だと思う。</p> | <p>○ 令和元年度から3年間実施した「小・中・高等学校英語教育支援事業」において、小中高の教員がそれぞれ異なる校種に出向いての授業やお互いの授業の見学の実施、合同研修など、異校種が連携した授業実践に取り組んできたところであり、今後は高等学校における義務教育段階の学習内容の学び直しの場面に生かすなど、成果の普及に努めます。</p> |
| <p>【広報・周知】 ⑪ 高校ごとに、魅力化のためにいろいろ取り組んでいることが、情報（新聞、TV など）として伝わってきている。今後も高校生の意欲につながるよう期待している。</p> | <p>○ 多様なタイプの高校を紹介したパンフレット「わたくしの進路」を毎年度作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配布するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>⑫ 地域別検討協議会で、各町、各高校の特色ある高校づくりの取組が発表された。わたしたち中学校関係者は、このような取組を理解し、進路決定の情報として、生徒や保護者にしっかりと伝える必要があると改めて感じた。</p> | <p>○ また、多様なタイプの高校の教育内容を紹介したビデオについても同じく高校教育課のホームページに掲載し、順次内容の更新を行っています。</p> |
| <p>⑬ 魅力化について様々な取組をしていることと思うが、せっかくの取組が十分に伝わっていないように感じる。</p> | <p>○ 各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配布のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。</p> <p>注： 道内公立高等学校のホームページは次の URL を参照してください。 http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html</p> |

| <p>■ 小規模校・地域連携特例校</p> | |
|--|---|
| <p>意見又はアンケートの概要</p> | <p>道教委の考え方</p> |
| <p>【教育環境の維持・向上】</p> <p>① 北海道の地理的な特殊性を考慮した、少人数でも質の高く特色ある教育の実現を、北海道独自の観点で行うことを望みます。</p> <p>② 地元高校が、地元中卒者の進路希望を叶えられる学校となり、せめて高校卒業時までは親元から通える環境であることが、将来の地域振興に寄与できる人材の育成には必要なことのように思える。</p> <p>③ 小規模校の魅力化に関して意見が出されていたが、学校独自で取り組むのは、人員や施設、環境等の面から難しく、地域の支援がなければどうにもならないのが現状である。</p> <p>④ 地域の特色を生かした学校活動が行われるよう、各学校での特色ある教育課程の実現を望む。</p> | <p>○ 他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、T-baseからの授業配信や、協力校からの出張授業などにより、教育環境の維持向上を図るほか、地域連携特例校間での合同授業や生徒会交流など、遠隔システムを活用した取組を行っています。</p> <p>○ また、コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの構築、地域課題探究型の学習活動など、魅力ある高校づくりに取り組むほか、教育内容の充実に向けて、1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。</p> |
| <p>【遠隔授業等】</p> <p>⑤ へき地においても、授業力がある先生の授業を遠隔により受けられたりするなど、工夫が必要だと思った。</p> <p>⑥ いち早いDX、ICT化により、北海道のどこでも、質が高く、各生徒の能力と学びに合わせた高校教育を受けられるようにすることで、配置計画が根本から変革することを望む。</p> <p>⑦ 小規模の高等学校にも進学コースなどを設けて、遠隔授業等で、大学を目指す生徒の学びを保障できるといいと思う。</p> <p>⑧ ICTを活用した遠隔授業を整備していくことが小規模校ではますます重要と思う。</p> | <p>○ T-baseは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことができる、多様で質の高い教育を提供するため、大学進学等の希望に対応した教科・科目を配信し、教育内容の充実を図ること ・小規模校が、魅力化に取り組むことで、子供たちが地元で育ち、地域に愛着と誇りをもってふるさとの発展に貢献していく意欲を育むことを目的としています。 <p>また、T-baseと地域連携特例校及び離島の高校を相互に結び、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の高校へ授業を同時配信し、他校の生徒とともに学ぶ合同授業の実施 ・大学進学など、同じ目標を持った他校の仲間と切磋琢磨した学び ・夏季・冬季休業中の進学講習の受講 ・全国の最新情報を踏まえた進路指導の支援を行うなど、教育環境の充実に努めます。 <p>○ 昨年度までの5年間、対面による授業時数を緩和した遠隔授業の単位認定の在り方等についての研究開発に取り組んでおり、今後は、生徒の理解力に応じ</p> |

た個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実に向けた取組を進め、その成果の普及に努めます。

| ■ 高校配置計画の策定 | |
|--|--|
| 意見又はアンケートの概要 | 道教委の考え方 |
| <p>【基本的な考え方】</p> <p>① 少子化は無視できない問題であるが、市町村合併前の行政区にあった高校は、極力残していただきたいと思う。通学の問題、地域の疲弊に直結することと考える。</p> | <p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、中学校卒業者数や生徒の進路動向、学校規模、学校・学科の配置状況、欠員の状況などを勘案し、地域の実情などを考慮しながら策定しており、その際、市町村合併前の旧市町村別の中学校卒業者数や生徒の進路動向等も踏まえながら検討しています。</p> <p>○ 中学校卒業者数が減少する中、多様で柔軟な教育課程を編成し、活力ある教育活動を展開するため、再編整備などを含めた高校配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、都市部と郡部の違いや地域ごとの特性などを十分考慮し、特色ある高校づくりや、高校配置に努めます。</p> |
| <p>② 将来的に生徒を地元で就職させ、地域に貢献できるようにしていくことを基本とした配置計画を考えるべきである。単純に少子化だから学校を閉校したり、学級減にしたりすることではないと思う。</p> | |
| <p>【策定方法・示し方】</p> <p>③ 現状を踏まえて、高校の配置、計画の考え方、再編や定員調整の進め方に対しては、中卒者数と地域との意見交流を通して策定している点で、適切な対応だと考える。</p> | <p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、人口減少社会への対応や地域創生の観点から、地域の教育機能を確保するための方策などを示す「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待も十分踏まえるとともに、小学校の校長や保護者にも参加いただいている地域別検討協議会において、地域の方々の御意見を伺うほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただきながら検討しています。</p> <p>○ 今後とも、今後の中学校卒業者数の状況を踏まえた上で、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めるとともに、関係市町村に対して、高校配置計画の検討に必要な情報を早期に提供するなど、地域での議論が一層深まるよう努めます。</p> |
| <p>④ 配置計画の策定に当たっては、地域に対する説明を今まで以上に丁寧にする必要があると思う。</p> | |
| <p>⑤ 再編については、生徒、保護者ともに非常に関心が高い。不安解消のために情報周知する場をこまめに設けていただきたい。</p> | |
| <p>【再編等（地域の実情等）】</p> <p>⑥ それぞれの通学可能な地域で普通高校や職業高校を存在させ、生徒が選択できる環境、その時に北海道は広域となることから、通学のための交通網（スクールバス等）の環境整備も併せて必要だと思う。</p> | <p>○ 高校配置の検討に当たっては、広域で地域事情も異なる本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ 急激な人口減少が進む中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、交通機関の状況や、市町村に一つの高校しか存在しない場合が多いこと、地理的状況等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p> |
| <p>⑦ 少子化による生徒数の減少は否めないで、再編や定員調整等による高校の適正な配置は、生徒の学びの環境や資質向上の面等からも、していかなければならないと思うが、反面、地域の実情（家庭経済の負担や地域で育てるといった町の考え）を鑑みたときに、少なくとも、町の子供の育成方針や地域の考え方等を十分検討していかなければならないと思う。</p> | |

| | |
|--|--|
| <p>⑧ 通学距離・時間を考慮した上で、都市部に高校が集中することのないような配置を考えてほしい。</p> | <p>○ こうしたことから、再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> |
| <p>⑨ 少子化が急激に進む現状の中、中学校卒業生数の減少数だけで、地方の高校の募集停止を行うのではなく、通学に要する時間と費用や進学先の選択肢の幅など、地方在住の中学生にも自宅から通える高校を選べるよう、高校の配置に特段の配慮をいただきたい。</p> | <p>○ 今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、各年度の中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、都市部と郡部の違い、学校・学科の特性、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを勘案するとともに、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。</p> |
| <p>【再編等（小規模校の役割）】</p> <p>⑩ 適正配置の方向性は理解できるが、広域分散の北海道は当てはまらない学校が多いように感じる。小規模で支援ができる学校を郡部に手厚くしていく必要があると感じた。</p> | <p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員数が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。こうした中、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場としての役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。</p> |
| <p>⑪ 配置計画はよく考えられていると思う。ただ、普通高校と特別支援学校のどちらに行くか揺れ動いている生徒や家庭が多く存在する中、郡部の小規模校においては、その受け皿になっている部分もあるので、その辺への考慮も必要かと思う。</p> | <p>○ 中学校卒業生数の減少が続く中、高校の教育環境を整え、生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましいと考えていますが、再編整備を進めるに当たっては、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> |
| <p>⑫ 地域の未来を支える人材の育成は、地域創生の観点からも、地方の小規模校にとっては重要なミッションである。そのような中、地域の自治体とも連携を図り、魅力ある学校づくりを推進していきたい。</p> | <p>○ 「これからの高校づくりに関する指針」において、人口減少社会への対応や地域創生の観点から、地域連携特例校などに係る再編基準を緩和したところであり、道教委としては、遠隔システムによる教育環境の整備や、市町村教育委員会・地元企業等との連携・協働による特色ある教育活動などを通して、一層魅力のある高校となるよう、きめ細かな支援に努めます。</p> |
| <p>⑬ 少子化が進む中、再編等は致し方ないと思うが、大規模集団生活に適応できない生徒も一定数おり、小規模校の存在が大きいことも留意していただきたいと思う。</p> | <p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に寄与することができる人材の育成に向け、地域の方々の御意見を十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p> |
| <p>⑭ 大規模校ではなじめない子供たちが小規模校で生き生きと学び、自分探しをしている。単に入学者が少ないから再編整備をするのではなく、地域の実情を酌み取り、小規模校の存続をお願いします。そうしないと、郡部から高校がなくなってしまう。</p> | <p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会で私学関係者からも御意見を伺うとともに、私立・公立高校関係者と道及び道教委による「北海道公立高等学校協議会」を設置し、中学校卒業生数を踏まえた公私双方の入学定員の考え方などについて協議しています。</p> |
| <p>【私学・高専との関係】</p> <p>⑮ 少子化が進む中で、配置計画のあるべき姿をしっかりと考えていく必要があると思う。私学にとっては、配置計画そのものが死活問題だと思うので、十分意見を聞いて進めるべき。</p> | <p>○ 公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、私学所在学区ごとに、中学校卒業生数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行っています。</p> |
| <p>⑯ 公私が、今後とも、切磋琢磨しながら、教育力が高まる教育環境を維持できる配置計画としていただきたい。</p> | |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国立高等専門学校等の定員調整については、公私立高等学校協議会として、(独法)国立高等専門学校機構に対し、毎年、文書で定員の遵守や定員調整について要望を行っています。 |
| <p>⑰ 高専について、平成3年度から30年間、定員を減らしていないことは納得できない。令和3年度入試においては、他校へ入学手続きの完了した者の追加合格まで出し、後期試験も行うという実態を何とか変えていかなければならないのではないか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 公立高校と私立高校等が協調し、地域における教育環境の維持向上を図ることが重要と考えており、今後とも、私立高校等の関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。 |
| <p>【学級定員の引き下げ】</p> <p>⑱ 中学校卒業者が、今後も減少するにもかかわらず、学級定員が40人ということに、非常に疑問を感じている。卒業生数が減少していくに伴って、高齢化比率も上がる。これからの厳しい社会を生き抜く子供たちの育成のために、今以上の教育環境の充実に努めるのが、私たちの責任と考えている。改めて、35人以下学級に向け、定数改善に努めていただきたいと思う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、本道独自の少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えています。 ○ これまでも、1学年1学級の道立高校に対する道独自加配のほか、国の加配定数を活用した様々な加配を行っており、今後、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き定数改善を要望していきます。 |
| <p>⑲ 高校においても配慮を要する生徒が増加していると認識している。きめ細かな指導・支援、誰一人見逃さない・見落とさない教育の実現のためには、教職員・1学級当たりの生徒の定数改善が必要と考える。法改正や財源などの壁はあると思うが、予算や労力を将来への投資に使っていただきたい。</p> | |
| <p>【望ましい学校規模】</p> <p>⑳ 学級数4～8にこだわることなく、小規模でも、各地域の特色に根ざして存続できる方法について、検討いただきたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。そのため、再編整備が可能な限り、学級規模の維持に向けた検討を行っています。 |
| <p>㉑ 「一人でもその高校へ進みたいという生徒がいる限り、高校はあるべきだと考える」という意見もあるが、一緒に学ぶ友人がいるから、高校生活が充実するのであって、生徒一人の高校では、学校行事などの面で魅力がない。魅力ある学校には適正な生徒数が必要と考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 再編整備を進めるに当たっては、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。 |

| | |
|--|---|
| <p>■ 高校配置計画の策定</p> | <p>□ 学区ごとの状況</p> |
| <p>意見又はアンケートの概要</p> | <p>道教委の考え方</p> |
| <p>【空知南】</p> <p>① 難関校への進学を始め、進路選択に柔軟に対応できる教育課程編成など、札幌や石狩管内にない高校づくり、あるいは岩見沢だからこそできる高校づくりを、今後、道教委にお願いしたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後とも、高校に対する期待や要望を伺いながら、多様で柔軟な教育課程を編成し、生徒の学習ニーズに対応できる魅力ある高校づくりに努めます。 |

| | |
|--|---|
| <p>【空知北】</p> <p>② 令和4年度入試において、滝川高校、滝川西高校の2校だけが定員を上回り、1次試験で不合格となった生徒は、2次募集・面接で周辺の定員割れの高校に入学していた。この状況が続き、滝川市の中学生人口が1クラス、2クラス分減少するまで配置計画を考えないとなれば、他の空知北学区の高校は、先に、間口減どころか募集停止になる高校が出てしまうのではと危惧している。他の高校も、地域と連携して特色を見いだしている状況を理解してもらいたい。</p> | <p>○ 空知北学区については、滝川市内の高校に多くの生徒が進学する傾向がありますが、周辺の高校についても特色化・魅力化を図るなどし、可能な限り生徒の学校選択幅の確保に努めるとともに、地域の方々の御意見を伺いながら、適切な高校配置となるよう努めます。</p> <p>○ なお、滝川市内については、欠員の状況や高校の小規模校化が進んでいることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の必要があると考えています。</p> |
| <p>【石狩】</p> <p>③ 不登校の児童生徒が増加傾向の現状の中、学び直しができる学校は大きな魅力であり、高校進学への垣根を減らすものとなっている。今後、アンビシャススクールから大学への進学が広がるのであれば、子供たちの夢の実現につながると感じる。</p> | <p>○ アンビシャススクールは、生徒が自己の生き方を考えながら「分かる喜び」を感じたり、「もっと学びたいという気持ち」を高めたりするため、学ぶ意欲に応える学習指導により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度の育成に重点を置いた学校です。</p> <p>今後も、導入した2校の取組の課題や成果について検証するとともに生徒のニーズを踏まえながらアンビシャススクールの充実に努めます。</p> |
| <p>【後志】</p> <p>④ 後志ではニセコ地区の外国人増加等、北海道の現状を受け、グローバルな視点での学科設置が必要だと考える。また、生徒を全道・全国から入学者募集するくらいの学校を設置しても良いのではと考える。他校と遜色ないような程度の学校だと、生徒数がギリ貧になることが容易に想像できる。</p> | <p>○ 学校や学科の在り方については、生徒の興味・関心、地域の実情や国の動向等を考慮するとともに、地域からの要望を伺いながら検討します。</p> <p>道外からの入学者については、農業や水産について学ぶことができる学校のほか、地域ならではの教育資源を活用して学ぶことができる学校において、推薦入学者選抜により受け入れることが可能です。</p> |
| <p>【胆振西】</p> <p>⑤ 地区の中心的都市の生徒減に対応する岩見沢や富良野については、妥当と思う。室蘭市内の統廃合の検討を進めるべきだと思う。</p> | <p>○ 室蘭市内については、令和7年度に室蘭工業高校の1学級減をお示ししているところですが、令和8年度以降についても、今後の中卒者数見込みや欠員の状況、学校・学科の配置状況等を考慮し、室蘭市を中心に再編整備を含めた定員調整の検討が必要と考えています。</p> |
| <p>【胆振東】</p> <p>⑥ 穂別高校が令和7年度に募集停止と発表になったが、地元住民への説明など、丁寧な対応をお願いしたい。</p> | <p>○ これまでも、地域の説明会に出席するなどして、より多くの方々から地域ごとの課題や高校配置計画に関して御意見を伺ってきたところです。</p> <p>○ 穂別高校の募集停止に関しても、地域での説明会に出席し、道教委の考え方を説明するとともに、御意見を伺い、計画の検討を行ったところです。</p> |
| <p>【日高】</p> <p>⑦ 町の子供たちだけでは、平取高校の40名の定員を満たさない状況がある。北海道としても、道外からの生徒の受入れなどについて地域と一緒に考えていただければと思う。</p> | <p>○ 道外からの入学者については、農業や水産について学ぶことができる学校のほか、地域ならではの教育資源を活用して学ぶことができる学校において、推薦入学者選抜により受入れが可能です。</p> <p>今年度、道外からの入学者の受入れを拡大するために要件の緩和を行ったところであり、当面は改善の効果の把握に努めます。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>【渡島】</p> <p>⑧ 中卒者数が令和8年度以降も大きく減るのは分かっているが、計画で示されているのは令和5年度の市立函館高校1学級減のみで、その後の見通しについては全然示されていない。私立としてもどう対応していけばよいか迷うところなので、公立の方は先に提示していただければと強く思う。</p> | <p>○ 高校配置計画については、できるだけ早い段階で中学生の進路選択に資するよう、3年先までの姿とその後4年間の見通しを示すこととしています。それ以上先については示すことは難しいものと考えています。</p> <p>私学所在学区においては、私立高校の配置状況を考慮し、適切な定員調整に努めます。</p> |
| <p>【檜山】</p> <p>⑨ 少人数になっても簡単に高校は減らせない。遠隔授業を活用して、学校をなくさないようにしてほしい。今のところ、遠隔授業を行う分、教員数を減らす仕組みとなっているが、教員数を減らさず、多様な科目を設置できるようにしてほしい。</p> | <p>○ 他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、存続を図るとともに、T-baseからの授業配信等により、教育環境の維持向上を図っています。</p> <p>また、遠隔授業の充実については、引き続き検討します。</p> |
| <p>【上川南】</p> <p>⑩ 市外流出を防ぐためにも、富良野市内の高校が魅力あるものになっていくことが必要。新設校については、地域の要望も踏まえて魅力ある学科にしてほしい。</p> | <p>○ 今後とも、高校に対する期待や要望を伺いながら、多様で柔軟な教育課程を編成し、生徒の学習ニーズに対応できる魅力ある高校づくりに努めます。</p> |
| <p>【上川北】</p> <p>⑪ 本道の広域性を踏まえ、地域連携特例校に限らず、全高校のICTやオンライン等の導入・活用を加速化し、各高校をつなげることで、学校規模や立地等の影響を受けずに教育の質の向上が図れるのではないかと考える。</p> | <p>○ T-baseからの遠隔授業は、地域連携特例校及び離島の高校を対象に、令和3年度から年次進行で配信し始めたところであり、令和5年度に全学年への配信となる状況です。</p> <p>対象校以外への配信については、現在の取組の成果と課題を検証した上で検討します。</p> |
| <p>【留萌】</p> <p>⑫ 留萌管内は小規模校が多く、小中と児童生徒の入替えは極端に少なく、人間関係が固定化されていることから、より選択の幅が広がる高校の再編が重要ではないかと考える。</p> | <p>○ 多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られることは重要と考えます。</p> <p>中学校卒業者が減少する中、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、地域の実情に十分配慮し、地域の要望を伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p> |
| <p>【宗谷】</p> <p>⑬ 一次産業を主とする町が多い宗谷には、職業学科が必要。道内の高校と連携したカリキュラムを策定するなどの工夫ができないものか。</p> | <p>○ 地域を支える職業人の育成に向けて、産業界と高等学校が一体となった社会に開かれた教育課程の推進に向けて取り組みます。</p> |
| <p>【オホーツク中】</p> <p>⑭ 留辺蘂高校のように、総合学科として特色ある教育に取り組んでいる高校を、人数が少ないのと言って切り捨てるのは乱暴だと感じる。是非再考をお願いします。</p> | <p>○ 中学校卒業生数の減少が続く中、高校の教育環境を整え、生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましいと考えていますが、再編整備を進めるに当たっては、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> <p>○ 留辺蘂高校については、地域連携特例校には該当せず、募集停止はやむを得ないと考えますが、これまで行ってきた特色ある取組を他校に継承するため、募集停止を1年間延期することとし、学区内における教育環境の充実に努めたいと考えています。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>【オホーツク東】</p> <p>⑮ 地域に高校を存続させることも大事、高校は一定程度の規模であることも大事。小規模化により、部活動を重視する生徒にとって魅力がなくなったこと、幅広い選択授業が開設できないこと、多様な人間関係を経験しにくくなったこと等が、改めて浮き彫りになったように思う。</p> | <p>○ 高校の小規模校化により、大学進学を希望する生徒に対応した習熟度別授業の実施や、生徒の興味・関心に対応した選択幅の広い教育課程の編成が困難となり、生徒が切磋琢磨する機会が減少する中、どの地域においても多様で質の高い高校教育を提供するため、令和3年度にT-baseを設置しました。地域連携特例校と離島にある高校に対し、令和4年度は1、2年生を対象に8教科25科目を配信し、受信校において幅広い科目が選択できるよう取り組んでいます。</p> <p>また、道立学校間の連携を行うことで、行事や生徒会の合同開催に取り組むなど、生徒間の交流に努めています。</p> |
| <p>【オホーツク西】</p> <p>⑯ 中学生の高校に対するニーズも多様化しており、あえて小規模校を選んで進学する生徒が毎年一定数存在する。特に、特別な支援を要する生徒は小規模を希望することが多く、選択肢の一つとしてぜひ存続をお願いしたい。</p> | <p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、高校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業生数の状況のほか、都市部と郡部の違いや学校・学科の配置状況などを勘案して検討しており、今後も、高校が地域で果たしている役割など、それぞれの地域毎の実情等を十分考慮するとともに、地域の方々の御意見を伺いながら、適切な高校配置となるよう努めます。</p> |
| <p>【十勝】</p> <p>⑰ 私学と公立校の役割分担・定数配分は今後どうあるべきか、北海道としての見解を伺いたい。</p> | <p>○ 公立高校と私立高校が協調し、地域における教育環境の維持向上を図ることが重要と考えており、今後とも、公立高校において中卒者数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行うことを基本とし、私立高校等の関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。</p> |
| <p>【釧路】</p> <p>⑱ 釧路市内については、今後、市立高校も含めた再編統合が必要と考える。</p> | <p>○ 釧路学区については、令和8年度以降についても、今後の中卒者数見込みや欠員の状況、学校・学科の配置状況等を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要と考えています。</p> |
| <p>【根室】</p> <p>⑲ 北海道の広域性を考えると、地元には高校があることは意義がある。効率性だけでなく、地域創生に必要な高校と学科の維持をこれからも大切にしてほしい。</p> | <p>○ 生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましいと考えておりますが、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> |

| <p>■ 職業学科の充実</p> | |
|--|--|
| <p>意見又はアンケートの概要</p> | <p>道教委の考え方</p> |
| <p>【職業学科の配置の在り方】</p> <p>① 生徒の置かれている環境は多岐に渡っている。生活環境が整わない中、自信をつけさせ、創造性を持った人材に育てるためにも、小規模校に職業学科が必要と考える。</p> | <p>○ 職業学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を通して本道の産業を支える人材を育成しています。</p> |
| <p>② 商業と工業の統合など、新たな職業高校再編を検討しても良いのではないかと考える。</p> | <p>○ 生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与する人材を育成できるよう、地域の御意見も伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検</p> |

討します。

■ その他

意見又はアンケートの概要

道教委の考え方

【地域への説明等】

① 学校に通学する生徒、保護者の願いや思いをしっかりと受け止めて、高校の配置計画を見直す必要があるのであれば見直して、それを生徒、保護者に説明してほしいと思った。

② 少子化が進む中、再編は致し方ないが、関係者との事前協議など、できる限り早めの情報開示が必要では。

○ 高校配置計画の策定に当たっては、通学区域ごとに計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。

○ 地域別検討協議会では、地域の様々な立場の方から御意見を伺うことや、保護者や学校関係者に早い段階から高校の配置について理解いただくことが重要であると考え、小学校の校長、PTAや経済団体関係者にも参加いただいています。

○ 今後とも、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出席して、より多くの方々から地域ごとの課題や高校配置計画に関して御意見を伺うなどし、地域の実情等を十分考慮しながら、適切な高校配置となるよう努めます。

【地域別検討協議会】

③ コロナ禍であることと、移動時間等の縮減と働き方改革の観点から、Webでの参加を選択できる形は良いと思った。

④ オンラインの場合、機器の性能などにより、音声聞き取りづらいことがあったり、マイクのハウリングが起こったりして、協議に少なからず影響がある。事前の機器調整を入念に行うなど、改善願いたい。

○ 今年度の地域別検討協議会については、出席者の負担軽減や、感染症拡大防止等の観点から、全道19学区でオンライン（Zoom）を活用した開催としました。

配付資料はWebページ上での掲載とし、御意見については、電子申請システムを活用し、取りまとめました。

○ 今後も開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、いただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。